

大垣西インターチェンジ周辺土地利用構想

概要版

1 背景と目的

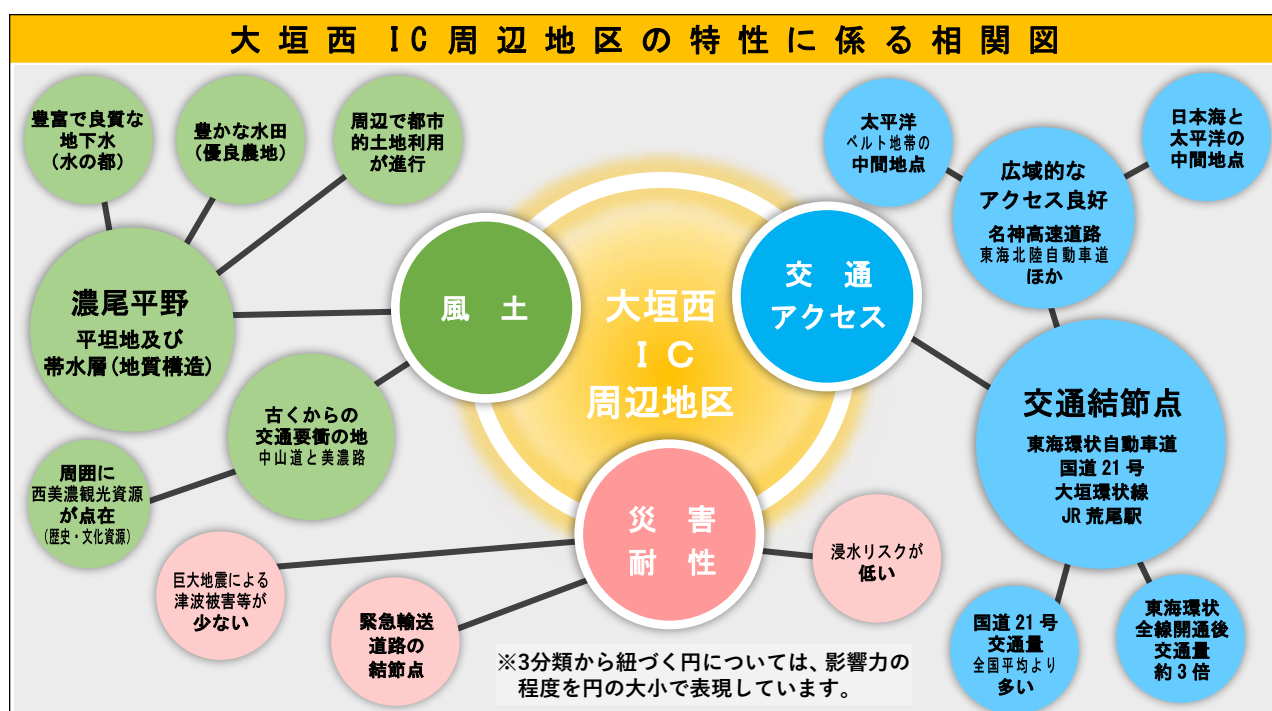
大垣西インターチェンジ周辺地区（以下「本地区」という。）は、東海環状自動車道をはじめ、国道21号、主要地方道大垣環状線が結節するとともに、東海道本線が通り、JR荒尾駅が近傍に位置する交通の要衝です。

今後は、東海環状自動車道の全線開通が予定され、また、現在進められている国道21号岐大バイパス工事の進捗により、大垣西ICと岐阜各務原IC間の交通量は、ますます増加することが見込まれています。

本構想は、これらの状況を踏まえ、本地区の立地特性を生かし、社会課題の解決と地域活性化を図るため、民間活力の導入を視野に入れ、必要な土地利用や機能の方向性を探るものです。

2 本地区の特性を生かした土地利用コンセプト

本地区の現況や地理的特性などを、「交通アクセス」「風土」「災害耐性」の3つの特性として分類し、相関図として表しました。特に、“人の流れ”や“物の流れ”に優れた立地であることを踏まえてポテンシャルを定義し、このポテンシャルを引き出し、目指すべき土地利用のコンセプトを次のとおり設定しました。



ポテンシャルを定義

「モノ」が集積し、「ヒト」の交流が生まれ、
多様な「コト（サービス）」へつながるポテンシャル

土地利用コンセプト

ぎふ西美濃の新たなゲートウェイ

3 各種ニーズ調査

民間事業者進出意向等調査（様々な分野から選定した事業者）	回答数：40 社
・本地区への進出について、「商業」・「交通」関係の事業者から強い意向があった。 ・「工業」関係の事業者からは、進出における一定の関心度が示された。	
バス事業者ニーズ調査（東海・北陸・関西地方のバス協会会員事業者）	回答数：38 社
・大垣西 IC 周辺の観光・休憩機能を備えた施設整備ニーズが高い。 ・収穫体験農園などの観光施設ニーズが高い。	
物流トラック事業者ニーズ調査（東海・北陸・関西地方のトラック協会会員事業者）	回答数：80 社
・大垣西 IC 周辺の休憩・情報機能を備えた施設整備ニーズが高い。 ・関ヶ原方面の雪害の影響から、一時待機できる駐車場や情報提供機能が重要。	
地元住民ニーズ調査（宇留生連合、荒崎連合、静里連合の各自治会長）	回答数：46 人
・「地域振興・観光（道の駅等）」をはじめ、「防災（防災センター等）」、「商業（複合商業施設等）」、「公園」に関する土地利用ニーズが高い。	

4 土地利用の可能性

各種調査を踏まえ、分野（切り口）を設定し、各分野の「強み」を生かして、様々な社会課題の解決を図る土地利用の可能性を検討しました。

自然環境	
① 「水の都」をテーマとした施設整備による集客促進	⇒ 親水広場、サップ体験場、ハロ学習館 等
② 「再エネ×防災」の取り組み推進	⇒ エネルギーセンター、大規模ソーラーパーク（道の駅など）、防災井戸 等
③ 自然環境資源を活用した周遊観光の促進	⇒ 周遊バスツアーの発着場、サイクルステーション 等
農 業	
① 西美濃農産物の集積・販売・出荷拠点整備	⇒ 農産物の集出荷施設 等
② 生産から加工、販売・流通までを行う6次産業化の促進	⇒ 6次産業化を踏まえた生産農園、スマート農場、農産物直売所（道の駅など） 等
③ 大垣産ブランド農産物のPR推進	⇒ 体験農園、観賞用農園、地産地消レストラン 等
歴史・文化（観光）	
① 歴史・文化による体験型観光推進	⇒ 弥生時代や戦国時代をテーマとした体験施設・公園 等
② 周辺地域へ便利にアクセスできる周遊観光の促進	⇒ 多様な交通モードを取り揃えた観光ハブステーション（道の駅など） 等
③ 知的好奇心を満たす学習情報施設	⇒ 歴史・文化に関する学習館 等
レジャー・スポーツ（観光・健康増進）	
① 宿泊等が可能な滞在型観光の促進	⇒ RVパーク、コンテナホテル 等
② 大規模スポーツ施設やアーバンスポーツ場	⇒ BMX などができるアーバンスポーツ場 等
③ 日々の健康づくり・交流づくりの場	⇒ 遊歩道、健康遊具を備えた公園、多世代交流を促す多目的交流施設 等
産業・物流	
① 雇用促進、物流効率化の進展に資する拠点	⇒ 大型物流施設、物流倉庫、大規模小売店舗、共同輸配送拠点施設 等
② トラックドライバーの休憩・中継場所	⇒ ドライバーの休憩施設・中継輸送拠点（道の駅など） 等
③ 新しい技術を盛り込んだ物流施策の推進	⇒ ドローンの配送拠点施設、ダブル連結トラックの切り替え基地 等
防 災	
① 広域的な災害の支援・受援拠点	⇒ 防災センター、医療関係施設 等
② 関ヶ原方面の雪害時における一時避難所	⇒ 大規模駐車場（道の駅など） 等
③ 地域防災活動拠点	⇒ 地域交流センター、芝生広場 等

5 道の駅の適地性

本地区は、東海環状自動車道をはじめとする幹線道路が集まるほか、東海道本線が通り、JR荒尾駅が近傍に位置する交通結節点です。

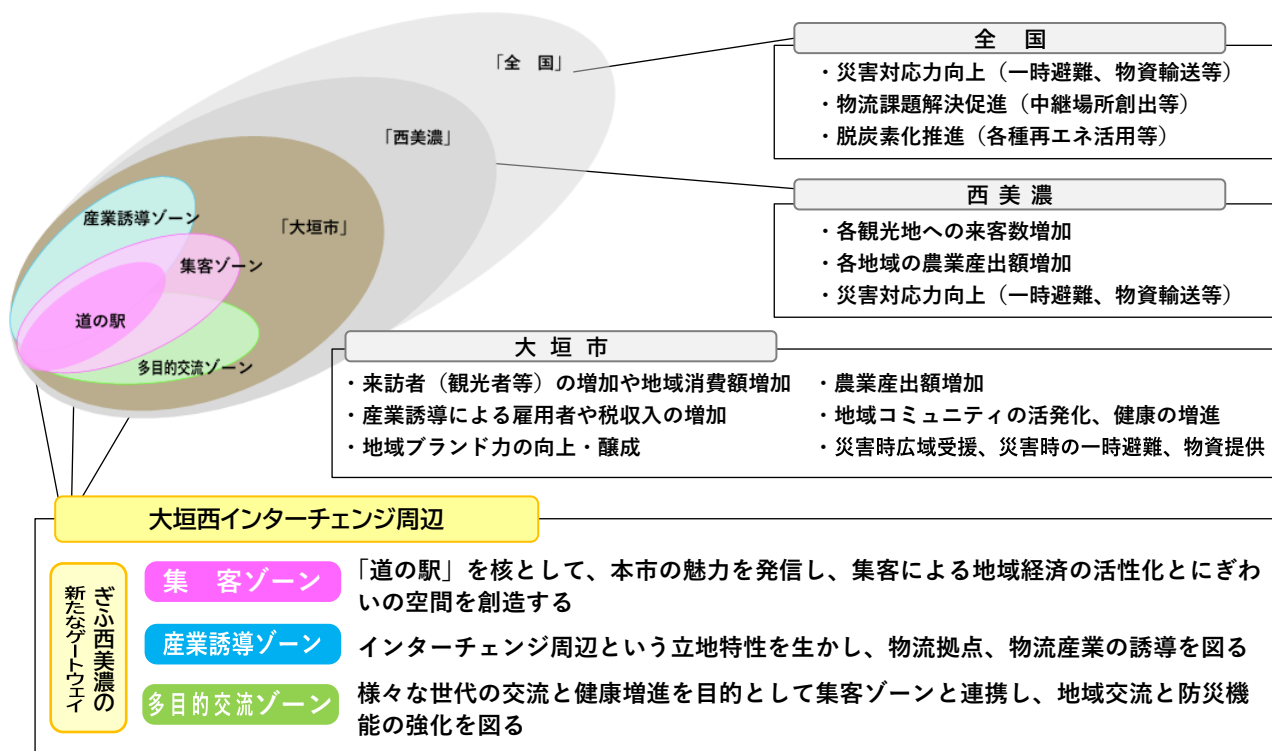
また、広域的な観点から、東海環状自動車道及び岐大バイパス（国道21号）のほぼ西端に位置すること等を踏まえると、岐阜県のみならず中京圏における西のゲートウェイとしての拠点性が高く、「道の駅」を整備することでその役割を果たすことが期待されます。



6 土地利用構想

(1) 3つの土地利用ゾーンとアプローチ

本地区において軸となる土地利用を、道の駅を核とした「集客」、「産業誘導」、「多目的交流」の3つに分類し、土地利用ゾーンとして設定しました。また、土地利用としてアプローチする対象を「大垣市」、「西美濃」、「全国」の3つに分類し、それぞれに対し様々な価値を高めることを目指します。



(2) 導入機能と想定施設

本地区において特に重要な役割を果たす導入機能を次のとおり整理し、各機能の導入が考えられる施設を想定しました。

また、機能・施設と土地利用ゾーンの関係について整理しました。

No.	導入機能	想定する主な施設	土地利用ゾーンと導入機能の関係		
			集客	産業誘導	多目的交流
1	休憩機能	道の駅 など	○		
2	情報発信機能	道の駅 など	○		
3	地域連携機能	道の駅、民間商業施設 など	○		
4	物流拠点機能	物流施設、中継輸送拠点 など		○	
5	観光ゲートウェイ	道の駅 など	○		
6	交通結節点機能	道の駅 など	○		
7	農業振興機能	観光農園、生産農園 など	○	○	○
8	防災・再エネ機能	道の駅、都市公園 など	○	○	○
9	健康増進機能	都市公園、スポーツ施設 など			○

(3) コンセプトを実現する土地利用方針

前項でとりまとめた導入機能を3つの土地利用方針として分類し、設定。当方針をもとに各導入機能を効果的に発揮させ、土地利用コンセプトの実現を図ります。

ぎふ西美濃の新たなゲートウェイ

土地利用方針1

「道の駅」を核とした「地域価値」の向上

- 1 休憩機能
- 2 情報発信機能
- 3 地域連携機能



土地利用方針2

「地方創生」を加速する

- 1 物流拠点機能
- 2 観光ゲートウェイ機能
- 3 交通結節点機能



土地利用方針3

「持続可能」なまちを形成する

- 1 農業振興機能
- 2 防災・再エネ機能
- 3 健康増進機能



※画像は、各機能の一例を示したものです。

整備方針

★「道の駅」を核とした施設整備により、西美濃地域を代表するゲートウェイとしての役割を最大限に発揮し、地域価値を向上させ、「地方創生」「持続可能」な都市の実現に向けた土地利用を目指す。